

付 録

主要年表

西東京市の年表

時 代	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
平 成	2001	平成13年	田無市と保谷市が合併し、西東京市となる。 西原小学校及び西原第二小学校を統合し、けやき小学校となる。
	2002	平成14年	市章決定 はなバス運行開始 「非核・平和都市」を宣言
	2003	平成15年	上向台地区会館開設 東伏見コミュニティセンター開設 保谷駅北口交通広場完成 子ども家庭支援センター開設 千葉県勝浦市と友好都市提携 ISO14001認証取得
	2004	平成16年	けやき小学校移設 市民憲章、市歌制定、市の木（けやき、はなみずき）・ 市の花（つつじ、ひまわり、コスモス、すいせん）指定
	2005	平成17年	福祉特区「みんなで支える地域特区」の認定を受ける。 西東京いこいの森公園開設 東伏見三丁目の畑で不発弾撤去
	2006	平成18年	西東京市民栄誉賞第1号は、西東京市出身の井口資仁さんに決定 南町スポーツ・文化交流センター「きらっと」開設 北原児童館建て替え 保谷駅南口地区第一種市街地再開発事業開始
	2007	平成19年	下野谷遺跡公園開設 家庭ごみの戸別収集及び不燃ごみの分別収集開始 市ホームページが、「全国広報コンクール」で総務大臣賞受賞
	2008	平成20年	住吉会館「ルピナス」開設 エコプラザ西東京開設 保谷駅前図書館移設（下保谷図書館から改称） 保谷駅前公民館開館、住吉公民館閉館 ISO14001からエコアクション21へ移行
	2009	平成21年	中原出張所及び谷戸出張所を統合し、ひばりヶ丘駅前出張所開設 保谷公民館から柳沢公民館へ改称
	2010	平成22年	芝久保三丁目ふれあい公園、北宮ノ脇公園開設 保谷庁舎市民広場開設 下保谷児童センター(旧 児童館)建て替え 下保谷福祉会館建て替え 保谷柳沢児童館東伏見分室閉館

資料：企画部秘書広報課

時 代	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
平 成	2011	平成23年	市制施行10周年 西東京市マスコットキャラクター「いこいな」が誕生 ひばりが丘児童センター開設 ひばりが丘総合運動場「ひばりアム」開場 すみよし保育園の建て替え そよかぜ保育園の開園（田無乳児保育園が移設・統合） 障害者総合支援センター「フレンドリー」開設 東伏見ふれあいプラザ開設 「健康都市」を宣言
	2012	平成24年	保谷駅南口地区第一種市街地再開発事業完了 市庁舎有料時間貸駐車場オープン 「西東京市安全・安心いーなメール」の配信サービス開始 菅平少年自然の家閉館
	2013	平成25年	第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会開催（総合体育館 バスケットボール競技 成年男子準々決勝・準決勝、成年女子 1回戦から3回戦まで・準々決勝） 北原運動場閉場 都立東伏見公園一部開園 西東京3・2・6号調布保谷線一部開通（西東京東伏見トンネルから保谷庁舎付近まで約2km）
	2014	平成26年	みどり児童センター閉館 健康都市連合加盟 「ワクチンマネージャー」のサービス開始 健康応援団結成
	2015	平成27年	下野谷遺跡国史跡指定 泉小学校閉校 西東京3・2・6号調布保谷線全線開通
	2016	平成28年	『縁（ゆかり）～西東京市ゆかりの文化人を紹介～』の発行 南部地域協力ネットワーク設立 放置自転車供与により、カンボジア政府から感謝状と勲章を受領 証明書コンビニ交付サービス開始
	2017	平成29年	人口20万人突破 ひばりが丘さくらの道公園開園
	2018	平成30年	東伏見駅周辺に縄文モニュメント登場 ひばりヶ丘駅北口バリアフリー化 子ども条例制定 ひばりが丘中学校＜新校舎＞が完成 東京2020大会に向けた、オランダ王国のホストタウンに登録される。
令 和	2019	令和元年 (平成31年)	ひばりヶ丘駅北口線（ひばりヶ丘駅北口交通広場含む）完成 西東京市民会館閉館 健康都市連合日本支部支部長市に就任 子ども相談室「ほっとルーム」開設 資源物の戸別収集開始

時 代	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
令和	2020	令和 2 年	西東京市役所田無第二庁舎が完成 東京2020大会に向けた、共生社会ホストタウンに登録される。 福祉丸ごと相談窓口開設 子育て世代包括支援センター「いこいこ」開設 中原小学校＜新校舎＞が完成
	2021	令和 3 年	市政施行20周年 新型コロナワクチンの接種開始 西東京市消費喚起事業（プレミアム応援券）を実施 東京2020大会における西東京市の火が採火される。 旧保谷庁舎パネル展を開催 西東京市公式LINEによる情報発信を開始
	2022	令和 4 年	西東京市「ゼロカーボンシティ」を宣言 児童発達支援センターひいらぎ開設 おくやみ窓口開設 スポーツ相談窓口開設 西東京市空き家バンク創設
	2023	令和 5 年	西東京市生涯現役応援サイト「ミーツ（meets）」を開設 子ども・若者平和ワークショップを開催 西東京市子どもLINE相談いこいーな窓口@西東京を開設 国史跡下野谷遺跡竪穴式住居・土器溜まり公開開始及び整備地の愛称が「したのや縄文の里」に決定
	2024	令和 6 年	市立小・中学校の給食費完全無償化 スマートウェルネスシティ首長研究会加盟 おおぞら公園への被爆樹木二世（アオギリ）の植樹 西東京市民文化プラザの一般利用開始

旧田無市の年表

時 代	西 暦	年号	主 な 出 来 事
戦 国	1559	永禄 2年	田無の地名が残る最古の文献「小田原衆所領役帳」が作成される。
江 戸	1696	元禄 9年	田無用水完成
明 治	1868	明治元年	蕨山県の管轄になる。
	1869	明治 2年	品川県に編入
	1872	明治 5年	神奈川県に編入
	1873	明治 6年	真誠学舎(現田無小学校)創立
	1875	明治 8年	田無郵便局開局
	1878	明治11年	郡区市町村編成法が施行され、北多摩郡に属す。
	1879	明治12年	田無町となる。(戸数360戸、人口2,196人)
	1889	明治22年	甲武鉄道(現 J R 中央線)開通、境新道開通 駅馬車の営業開始
	1893	明治26年	東京府に編入 府中警察田無分署(現田無警察署)開設
	1901	明治34年	田無銀行創設
大 正	1915	大正 4年	武蔵野線(現西武池袋線)開通
	1922	大正11年	電話開通
昭 和	1927	昭和 2年	西武新宿線開通
	1929	昭和 4年	昭和病院開設
	1930	昭和 5年	東大農学部附属農場開設 シチズン田無工場開設
	1932	昭和 7年	町役場庁舎新築
	1938	昭和13年	中島航空金属(現住友重機)開設 豊和重工(現石川島播磨重工業)田無工場開設
	1940	昭和15年	三共田無工場開設
	1943	昭和18年	東京都制施行
	1945	昭和20年	田無が空襲を受ける。
	1946	昭和21年	明治薬科大学田無校開校 武蔵野消防署田無出張所開設
	1947	昭和22年	田無町立田無中学校開校
	1948	昭和23年	田無農業協同組合設立

時 代	西 暦	年号	主 な 出 来 事
昭 和	1951	昭和26年	都市ガス敷設
	1952	昭和27年	田無公民館開設 田無町教育委員会発足
	1954	昭和29年	田無保育園開園 谷戸小学校開校
	1955	昭和30年	東大原子核研究所開設
	1956	昭和31年	し尿収集事業開始
	1957	昭和32年	塵芥収集事業開始 田無第二中学校開校
	1960	昭和35年	北部3ヶ町衛生組合(現柳泉園組合)設立 向台小学校開校
	1961	昭和36年	田無保健所開設 田無第三中学校開校 田無電報電話局開設
	1962	昭和37年	田無乳児保育園開設 学校給食開始 都立田無工業高校開校
	1963	昭和38年	町営水道事業開始
	1964	昭和39年	西原小学校開校
	1965	昭和40年	向台保育園開園 田無児童館開館
	1967	昭和42年	田無単独による市制施行 (東京都で16番目、全国で563番目、人口52,284人) 西原保育園開園 北原児童館開館 福祉事務所開設
	1968	昭和43年	芝久保小学校開校
	1969	昭和44年	みどり保育園開園 市民福祉会館(現市民会館)開館
	1970	昭和45年	田無市開発公社設立
	1971	昭和46年	芝久保児童館開館
	1972	昭和47年	市の人口6万人を突破 谷戸第二小学校開校 芝久保保育園開園
	1973	昭和48年	福祉作業所開設
	1974	昭和49年	菅平少年自然の家開所
	1975	昭和50年	柳沢小学校開校

時 代	西 暦	年号	主 な 出 来 事
昭 和	1975	昭和50年	中央公民館、中央図書館開館 特別養護老人ホーム「緑寿園」、地域ケアセンター開所
	1977	昭和52年	市制10周年、市民憲章・市の木・市の花を制定 田無第四中学校開校 公共下水道事業着手
	1978	昭和53年	上向台小学校開校
	1979	昭和54年	田無児童館移設 西原自然公園開園
	1980	昭和55年	西原第二小学校開校 けやき保育園開園 柳沢児童センター、西原児童館、西原北児童館開館 郷土資料室開館
	1981	昭和56年	向台公園開園 芝久保地区会館開館
	1982	昭和57年	芝久保公民館、芝久保図書館開館 南町地区会館開館 北原運動場開場
	1983	昭和58年	芝久保運動場開場 公共下水道供用開始 都立田無高校開校 新市庁舎落成
	1984	昭和59年	有害ごみの分別収集開始 市民総合体育館開館 田無市民公園開園 向台運動場開場 みどり児童センター開館 谷戸公民館開館、谷戸図書館開館 緑町地区会館開館
	1985	昭和60年	特別養護老人ホーム「サンメール尚和」、地域デイケアセンター開所 市の人口7万人を突破 谷戸出張所開所
	1986	昭和61年	住民基本台帳事務電算処理開始
	1987	昭和62年	市制20周年 多摩北部都市広域行政圏協議会発足
平 成	1989	平成元年	向台地区会館開館 市民プール開園 資源物収集開始
	1990	平成 2年	谷戸地区会館開館
	1991	平成 3年	田無都市開発株式会社発足
	1992	平成 4年	田無駅北口再開発ビル建設工事着工

時 代	西 暦	年号	主 な 出 来 事
平 成	1992	平成 4年	多摩六都科学館建設工事着工 緑と歴史の散歩道整備事業開始 下宿地区会館開館 高齢者在宅サービスセンター「シャローム南沢」開設
	1993	平成 5年	公文書開示制度開始 芝久保第二運動場(テニスコート等)開場 多摩東京移管百周年記念事業開催 総合福祉センター建設工事着工
	1994	平成 6年	多摩六都科学館開館 谷戸高齢者在宅サービスセンター開設 老人保健施設「エバグリーン田無」開設
	1995	平成 7年	田無駅北口再開発ビル「アスタ」、アスタ市営駐車場開設 アスタ市民ホール開設 総合福祉センター開設 特別養護老人ホーム「健光園」開所
	1996	平成 8年	田無駅北口再開発事業完成 平和の日制定 老人憩いの家「おあしす」開設
	1997	平成 9年	市制30周年 母子保健センター開設 在宅介護支援センター(健光園内)開設 北原地区会館開館 市民プール閉園 (仮称)ふれあい会館建設工事着工
	1998	平成10年	エフエム西東京「田無市からのお知らせ」放送開始 粗大ごみの有料化
	1999	平成11年	山梨県須玉町と姉妹都市提携 田無市ホームページ開設 コール田無開設 田無駅舎完成
	2000	平成12年	田無神社本殿・拝殿が東京都指定文化財となる。
	2001	平成13年	保谷市と合併し、西東京市となる。

旧保谷市の年表

時 代	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
縄 文			保谷に人が住んでいたと思われる。(下野谷遺跡、坂下遺跡から縄文時代の土器、石器等発見)
平 安	1081	永保元年	新倉郡穂屋村の発見(蔵文書 業平の説)
鎌 倉	1241	仁治 2年	武蔵に水田できる。
江 戸	1644	元保元年	上保谷検地300石余、年貢永50貫文余(検地帳)
	1663	寛文 3年	稲葉美濃守知行所となる。
	1685	貞享 2年	上保谷村高1,320石余、年貢永164貫800文余(検地帳)
	1696	元禄 9年	千川上水できる。
	1722	享保 7年	新田開発(武蔵野新田82ヵ所)
	1736	元文元年	上保谷新田、下保谷新田検地(大岡越前守)
明 治	1868	明治元年	従前の大名領、天領が上地され、武蔵知県事の管轄に属す。
	1869	明治 2年	品川県の管轄になる。
	1871	明治 4年	品川県廃止、入間県に属す。
	1873	明治 6年	入間県廃止、熊谷県に属す。
	1874	明治 7年	保谷小学校の前身、上保谷学校できる。(宝晃院を仮校舎とする。)
	1876	明治 9年	熊谷県廃止、埼玉県に属す。
	1878	明治11年	保谷第一小学校の前身、芳谷学校(ヨシタニガッコウ)ができる。
	1884	明治17年	上保谷新田、上保谷、下保谷、小樽、橋戸の五ヶ村で連合村をつくり、戸長役場を小樽村に置く。(世帯数724世帯、人口4,446人)
	1889	明治22年	村政施行、上保谷新田、上保谷、下保谷の3村が合併して、埼玉県北足立新座郡保谷村となる。
	1896	明治29年	埼玉県北足立郡に改編
	1898	明治31年	保谷村役場事務室、控室、土蔵建設
	1907	明治40年	東京府北多摩郡に編入(世帯数450世帯、人口3,405人)
大 正	1915	大正 4年	武蔵野鉄道(現西武鉄道池袋線)開通
	1922	大正11年	武蔵野鉄道電化
昭 和	1927	昭和 2年	西武鉄道村山線(現西武鉄道新宿線)開通
	1929	昭和 4年	保谷第二小学校が、保谷尋常小学校の第二分教場として発足 昭和病院開設
	1939	昭和14年	武蔵野都市計画区域に編入

時 代	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
昭 和	1940	昭和15年	町制施行、東京府北多摩郡保谷町となる。 (戸数1,528戸、人口10,052人)
	1943	昭和18年	東京府の区域を以って、東京都とする。
	1947	昭和22年	保谷中学校開校 (6.3.3制実施)
	1956	昭和31年	東伏見小学校開校
	1958	昭和33年	柳沢、伏見公団住宅建設
	1959	昭和34年	中原出張所開設 中原小学校開校 ひばりが丘公団住宅建設
	1960	昭和35年	ひばりが丘中学校開校 上水道事業計画着手 保谷町、田無町、久留米町、衛生組合を設立 公益質屋、授産所設立
	1961	昭和36年	公民館 (東伏見) 開館 久留米町下里にゴミ焼却場設立
	1962	昭和37年	そよかぜ保育園開園 (平成2年移転・ひばりが丘保育園に改称) 生活改善センター完成 武蔵野都市計画決定 (街路、用途地域、準防火地域、空地地区) 都市計画街路229号事業決定
	1963	昭和38年	碧山小学校開校 はこべら保育園開園 上水道通水式施行
	1964	昭和39年	柳橋出張所開設
	1965	昭和40年	きつつき保育園開園 第一回住居表示実施 (本町、富士町)
	1966	昭和41年	青嵐中学校開校 えにしだ保育園開園 (平成4年移転・ひがしふしみ保育園に改称) 東伏見児童館開館 第二回住居表示実施 (東伏見、柳沢)
	1967	昭和42年	市制施行・東京都保谷市となる。(世帯数24,159世帯、人口77,169人) 保谷市章制定、保谷市歌制定 こまどり保育園開園 保谷都市計画決定 (市制施行に伴い武蔵野都市計画より分離) 第三回住居表示実施 (新町、中町、泉町、住吉町、東町) 第四回住居表示実施 (ひばりが丘) 保谷市福祉事務所設置
	1968	昭和43年	市役所庁舎建設 市立体育館完成 第五回住居表示実施 (下保谷、北町、栄町、ひばりが丘北) 北部三町衛生組合を柳泉園組合と改める。
	1969	昭和44年	市営プール完成

時 代	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
昭 和	1970	昭和45年	栄小学校開校 ひばりが丘児童館開館 休日診療所設置 保谷市都市計画市街化区域の決定(市全域)
	1971	昭和46年	泉小学校開校 ふじ保育園開園(平成元年移転・ほんちょう保育園に改称) 福祉会館開館(現住吉福祉会館・公民館併設) 公民館(東伏見)を公民館東伏見分館とする。
	1972	昭和47年	柳沢中学校開校 市の木・市の花指定(けやき、さざんか)
	1973	昭和48年	すみよし保育園開園
	1974	昭和49年	保谷市水道事業を東京都水道事業へ統合 なかまち保育園開園 東小学校開校
	1975	昭和50年	下保谷福祉会館開館 下保谷児童館開館
	1976	昭和51年	ひがし保育園開園 きつつき保育園閉園 下保谷図書館開館 図書館住吉分室開室 市民運動場完成
	1977	昭和52年	しもほうや保育園開園 やぎさわ保育園開園 新町福祉会館開館 新町児童館開館 図書館新町分室開室
	1978	昭和53年	明保中学校開校(昭和59年4月より住吉小学校) 中町児童館開館
	1979	昭和54年	本町小学校開校 ひばりが丘北児童館開館 保谷郵便局開局
	1980	昭和55年	わんぱく公園開園(2月1日) 福島県南会津郡下郷町と姉妹都市盟約を締結
	1981	昭和56年	富士町福祉会館開館
	1982	昭和57年	ひばりが丘福祉会館開館 憲法擁護・非核都市の宣言
	1983	昭和58年	明保中学校移転(住吉町より東町へ) 公益質屋廃止(58.10.31)
	1984	昭和59年	住吉小学校開校(前 明保中学校) 文理台公園開園 東町ポンプ場(下水道)完成
	1985	昭和60年	障害者福祉センター完成

時 代	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
昭 和	1987	昭和62年	東伏見公民館閉館 柳沢公民館開館 柳沢図書館開館 下保谷ポンプ場(下水道)完成 保谷保健相談所開設 保谷消防署開設
	1988	昭和63年	保谷市民憲章、交通安全都市宣言制定 市の木・市の花の追加指定(ハナミズキ、モクセイ、桔梗、つつじ) 市の鳥指定(シジュウカラ)
平 成	1989	平成元年	保谷市開村100年 ほんちょう保育園移転(ふじ保育園から改称)
	1990	平成 2年	ひばりが丘公民館開館 ひばりが丘保育園移転(そよかぜ保育園から改称)
	1991	平成 3年	東分庁舎開設
	1992	平成 4年	ひがしふしみ保育園移転(えにしだ保育園から改称)
	1993	平成 5年	保谷市スポーツセンター完成
	1994	平成 6年	柳沢児童館開館 保谷市商工会館開館 ひばりが丘図書館開館
	1996	平成 8年	市内連絡バス(キャンバス)運行開始 ひばりが丘運動場完成
	1997	平成 9年	北町ふれあいセンター完成
	1998	平成10年	保谷こもれびホール完成
	1999	平成11年	保健福祉総合センター完成 保谷市防災センター完成
	2000	平成12年	保谷市高齢者センターきらら完成 あراやしき公園開園
	2001	平成13年	田無市と合併し、西東京市となる。